

thyroxine index は血清中 Total Triiodothyronine 量と良好な正相関を示した。( $r = +0.90$ ,  $N=39$ ,  $P < 0.001$ .)

〔結論〕① Free thyroxine index は最も良く甲状腺機能を反映し、特に治療中の機能亢進症を再発例の診断に非常に有効である。② Free thyroxine index と Total T<sub>3</sub> 量の関係より、Free thyroxine index の有用性が認められた。

### 134. 妊婦の Free Thyroxine Index —— “T<sub>7</sub>”値について

国立金沢病院 特殊放射線科  
○立野 育郎 加藤 外栄

甲状腺機能の *in vitro test* として、T<sub>3</sub> テストは広く行なわれており、さらに T<sub>4</sub> テストも普及しつつある。これら T<sub>3</sub> および T<sub>4</sub> 値を検討してみると、一般的には両者は甲状腺機能によく相關した値を示すが、TBP量が変動する場合には、両者は相反する値をとる。

妊娠では、TBP が増加するので、T<sub>3</sub> テストではその値が低下し、さらに T<sub>4</sub> テストではその値が上昇するので、甲状腺機能の診断的評価は困難であった。そこで、Clark, Goolden などにより発案された Free Thyroxine

Index より、Abott Lab. が展開、提唱した “T<sub>7</sub> 値” が、特に妊婦の場合に、甲状腺機能の正確な評価として役立つかどうかを検討することにした。

T<sub>3</sub> テストとしては Toriosorb 法（または Res-O-Mat T<sub>3</sub> 法）を、T<sub>4</sub> テストとしては Res-O-Mat T<sub>4</sub> 法（または Tetrasorb - 125 法）を行ない、T<sub>7</sub> 値は  $T_3 (\mu\text{g}/\text{dl}) \times T_4 (\%) \times 1/100$  で求められるが、まず、正常甲状腺、甲状腺機能亢進症ならびに低下症について、T<sub>7</sub> 値の正常域を 1.4~45 と定めると、臨床的にみとめられた甲状腺機能とよく一致して、その程度がより明瞭となることを確認してから、妊娠前期、中期、後期の正常妊娠、計42名について、T<sub>3</sub>、T<sub>4</sub>、T<sub>7</sub> 値を求めた。

T<sub>3</sub> 値は妊娠 4 カ月頃より低値をとり、T<sub>4</sub> 値は 3~4 カ月頃より一般に高値の傾向を示し、いずれも末期までほぼそのレベルを持続する。T<sub>3</sub> の低値または T<sub>4</sub> の高値を示す時期までは両者はほぼ正常域にある。T<sub>7</sub> 値は、その結果、42例中 3 例だけが正常域よりのハズレを示し (7.1%), T<sub>3</sub> 値のハズレ 80.9%, T<sub>4</sub> 値のハズレ 59.5% と比較して著しく較正された。全期を通じての T<sub>7</sub> 平均値は、3.17 (STD ± 0.88) となった。

T<sub>7</sub> 値は、妊娠の甲状腺機能の診断、評価に必須のものであると考える。